

論文審査結果の要旨

本論文については、2024年11月29日に申請者の学力の確認を行った後、論文を受理し、2025年2月19日、文学部会議室で開催した公開審査会において内容説明がなされ、その後質疑応答が行われた。公開審査会で提出された主な論点は、以下のとおりである。

- ①『封神演義』二十卷諸本の関係について。
- ②芸能・演劇と『封神演義』の関係について。
- ③褚人穫の系譜と出版活動について。
- ④複刻版・簡本・袖珍本刊行の背景について。
- ⑤上図下文本における「縮小」の状況について。
- ⑥明清における版権の実態について。
- ⑦「封神表」メンバー差し替えの理由について。
- ⑧建陽における歴史小説と歴史書の関係について
- ⑨『封神演義』の創作性について。

以上の論点について、質疑を行い、基本的に適切な認識を有していることが確認された。

本論文は、『封神演義』諸版本の関係を解明するとともに、その展開に関わった褚人穫などの人物についても考証を加えることによって、その展開の過程を具体的に明らかにし、そこから明清における出版の状況を浮き彫りにするとともに、『封神演義』の文学性をも追究するものである。筆者の版本調査は詳細を極め、現在閲覧可能なすべての版本を照査し、細かい文言に至るまで徹底的な校勘を加えた上で、各版本の関係をかつてない精度で明らかにしたもので、本論文によって『封神演義』諸版本の実態と継承関係を初めて具体的に示したという点で画期的な意味を持つ。更にそこから得られる成果は、単に『封神演義』単独の問題にとどまるものではなく、版本が変化しつつ刊行されていく経過を極めて具体的に描き出したことは、明清期における出版の実態を描き出すモデルケースとして重要な意味を持つ。

更に本論文においては、褚人穫などの刊行主体についても極めて詳細な調査を行い、清代における出版の状況や、それに関わった人物の実態を明らかにすることによって、白話小説の刊行という行為を当時の社会の中に位置づけることにも成功している。また、『封神演義』末尾にある「封神表」の内容の変更が、従来いわれてきたように早い時期の木版本においてではなく、清末の鉛印本において行われたことを初めて明らかにしたことは重要な成果であり、更に変更が加えられた事情までを説得力をもって示したことは、白話小説がどのように受容され、受容のあり方を承けて変化していくかを示す具体的な事例として重要な意味を持つ。

以上のように、本論文は、『封神演義』版本の詳細な調査を通して、その変化の実態を初めて解明し、あわせて明清における出版の状況を具体的に示した画期的な研究であり、本学における博士の学位授与の評価基準を満たしているものと判断される。よって本委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するに値することを認める。